

グローバル戦国時代を勝ち抜くための研究／開発力

～国際競争の今とこれから～

主催：日本化学会 コロイドおよび界面化学部会

日時：平成27年1月29日(木)・30日(金)

会場：日本化学会7階ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)



【企画趣旨】

今日の世界においては、社会、経済、技術、文化など幅広い分野で、急速にグローバル化が進んでいるといわれています。日本においても、ニュース・報道、企業の経営方針、学会、論文や様々な国家政策、プロジェクトなど、産学官のいたるところで議論されています。

＝そもそも”グローバル化”ってなんでしょう？＝

これまで日本の化粧品・トイレタリー市場は、コロイド界面化学や高分子化学などの技術を駆使して成長をしてきました。しかしながら、ここ数年市場の飽和状態が続き、今後は人口の減少と少子高齢化の影響を受けるため、大きな拡大が難しいのが現状です。これに対し、爆発的な人口増加と継続的な経済成長を続けるアジアを中

心とした海外市場は非常に魅力的であり、各社ともに重要戦略として「研究／開発のグローバル化推進」を掲げていますが、国際優位な先端技術開発による競争力強化、国内保有技術の海外展開、海外技術の日本導入、海外ローカルマーケティングによる現地ニーズを加味した商品開発など、一言に“グローバル化”と言っても、その戦術は様々と言えます。

そこで本シンポジウムでは、実際に世界各地で活躍されてきた先輩研究者の活動内容と、その際の苦労とそれを乗り越えたりリアルな体験談に触れながら、これからの進むべき“グローバル化”の道筋を模索し、日本の悩みに対して一歩を踏み出すためのヒントを紹介いたします。

プログラム

第1日:1月29日(木)

10:00-11:00 【基調講演】「グローバル競争時代のものづくり」～日本企業の進むべき方向性～

東京大学大学院 経済学研究科 ものづくり経営研究センター 特任研究員 吉川 良三 氏

‘13年、日本を代表する電機産業が未曾有の赤字や事業縮小に陥る一方で、韓国のサムソン電子の営業利益は我が国の電気大手8社の3倍を上回るほどの急成長を遂げました。しかし、日本のものづくりが負けたのでしょうか？否、いくつかの産業や企業の製品が韓国や中国に抜かれただけで、抜き返せばよいのです。過去のしがらみや、固定概念に固められた卵の殻は自ら割らなければ命もった鳥にはなりません。

11:00-11:50 「グローバル展開の歴史と今後の展望」

～持続的成長を支えるポートフォリオ、グローバル展開のコア戦略～

ユニ・チャーム(株) グローバル品質保証部長 宮澤 清 氏

ユニ・チャーム(株)は、主に紙おむつ、生理処理用品をはじめとする衛生用品とペットケア用品を国内外で製造販売し、海外の売上高比率はすでに50%を超えております。ユニ・チャームのグローバル展開の歴史と今後の展望、開発視点についてお話させていただき、グローバルでの持続的成長について考えてみたいと思います。

13:00-13:50 「How advanced skin science can help ingredients breakthrough and trendy」(英語講演)

SK-II Technical Marketing/P&G Innovation Godo Kaisha Senior Manager Yan Xianghong 氏

In this lecture, we will have an overview of skin aging, and we will introduce the historic anti-aging ingredients by skin care. Finally we will introduce several new anti-aging functional ingredients driven by cut-edge skin science.

13:50-14:40 【特別講演】「研究開発や海外事業を中心に企業経営の経験と実績から語る」

～国際競争を勝ち抜くための「他社の真似はせずに、世の中にないものをつくる」クリエイティビティ発想～

ロート製薬(株) 取締役副社長 ジュネジャ・レカ・ラジュ 氏

研究開発の着眼点が優れているということが、最終的な売上、利益につながるわけではない。開発・製造・マーケティングの調和から、世界の国々に向け「その国に必要とされる商品」を提供していくため、グローバルマーケットにおけるイノベーションの大切さを解説する。

15:00-15:50 「アニオン界面活性剤MESとその世界展開」

Lion Eco Chemicals Sdn. Bhd. R&D Manager 木村 宏 氏

LION ECO CHEMICALS SDN. BHD. は、パーム油由来のアニオン活性剤MES (Methyl Ester Sulfonate) をマレーシアにて製造、販売しています。MESのユーザーは、東南アジアをはじめ、衣料用洗剤会社を中心に全世界に広がり、現在の輸出比率はほぼ90%に上ります。本講演ではMESの界面活性剤としての特徴と、グローバルにMESを販売していく上での、研究業務の役割について考えてみたいと思います。

15:50-16:40 「ヘアケア向けカチオンベシクルの開発とその応用に関する研究」

(株)コーセー 研究所 スキンケア製品研究室 山下 美年雄 氏

リポソームに代表されるベシクル分散系は、難溶性脂質等の安定配合化や皮膚内部への高い浸透能から、広く化粧品製剤に応用されてきた。我々は2鎖型エステルコート界面活性剤により形成される新規のカチオンベシクル分散系を開発し、その毛髪内部への高い浸透能及びケア効果を見出すことに成功した。本講演では、その検討経緯に関して報告する。

16:40-17:30 「界面制御技術を用いたニュートリションデリバリーシステムでの 食品用機能性製剤」

太陽化学(株) ニュートリション事業部 中田 勝康 氏

「ニュートリションデリバリーシステム」は、食品用機能性素材が抱える特有の問題を解決し、さまざまな食品形態に応用可能で、美味しく、安全に、効率的に体に届ける界面制御技術である。この技術により開発された食品用機能性製剤について紹介をする。

第2日:1月30日(金)

10:00-10:50 「日本から&世界からみた化粧品規制の実際」

関東学院大学 人間環境研究所 客員研究員 中村 淳 氏

コロイド界面技術が広く用いられている化粧品は人々が日々使用するもので、その使用にあたってはその国や地域の生活慣習や生活文化に大きく影響を受けて規制されている。日本とかなり近似化されたとは言え、それを正しく理解した上で輸出相手国市場に提供することが重要であり、日本との違いや留意点について概説する。

10:50-11:40 「グローバル市場に向けたマーケティング」

～香りに対する各国ニーズや嗜好性、安定供給、品質管理～

高砂香料(株) フラグランス・アロマケミカル事業本部 フレグランス研究所 所長 丸山 賢次 氏

香料の機能性、地域別の香水の嗜好、環境および品質面に対する原料の観点から、現在求められているフレグランスの香りについて、グローバル市場における Developed Market と Emerging Market の両面からいくつかの製品カテゴリーを例に解説する。

13:00-13:50 「成長戦略としてのサステナビリティ」

ユニリーバ・ジャパン・サービス(株) 研究開発センターテクニカルマネジメント マネージャー 服部 静磨 氏

先進諸国における経済活動が地球の限界を超えていると指摘される今、持続可能性、すなわち、サステナビリティの追求は人類存続のための必須課題である。また、企業としては成長がビジネス存続のための必達目標でもある。グローバル企業ユニリーバにおける成長とサステナビリティを両立させる新しいビジネスモデルの創出をめざした活動を紹介しつつ、研究開発の在り方を考察してみたい。

13:50-14:40 「みえないものをみるために」

～大型放射光施設を用いた構造解析最新動向～

日本メナード化粧品(株) 総合研究所 主幹研究員 坂 貞徳 氏

化粧品開発には、コロイド分散系である製剤と製剤を塗布する皮膚との2つの界面を理解することが重要である。ここでは、放射光施設を利用した製剤(オイルゲル)の構造解析、疑似角質細胞間脂質、ヒト皮膚角層および三次元培養皮膚の構造解析、製剤を適用した皮膚角層の構造解析といった研究事例を紹介する。

15:00-15:50 「サンケア化粧品における紫外線吸収剤とその国内外の動向について」

BASFジャパン(株) ケア・ケミカルズ事業部 テクニカルサービス マネージャー 正木 功一 氏

現在サンケア化粧品に用いられている紫外線吸収剤の開発動向やそのパフォーマンス、製剤の紫外線防御効果を高めるための技術について、また国内外のサンケア市場、紫外線吸収剤の動向についてご紹介します。

15:50-16:40 「新規紫外線吸収剤の設計と光安定性向上へのチャレンジ」

～UV-B 吸収剤、ジオクチル4-メトキシベンジリデンマロネートの光物性～

(株)資生堂 化粧品基盤研究センター 副主任研究員 小口 希 氏

サンケア製品の担う役割は、美容や健康のために人体をUVから防御することである。そのためには安全性や使用感を満たすことが前提であり、いかに少量で効率よく高い防御能を発揮するかが求められる。我々はその機能を担うUV吸収剤のエネルギー放出機構の解明を行なうことにより、理想的なUV吸収剤を設計し物性と機能の評価を行なった。

16:40-17:40 【特別講演】「リポソームの化粧品への応用と今後の展開について」

(株)コーセー 常務取締役 研究所長 内藤 昇 氏

DDSとしてリポソームは魅力的な素材であるにもかかわらず、化粧品へ応用例は少ないのが現状である。その理由の一つには長期保存安定性の確保が困難な事にある。また外用剤としての有用性については、明確な結論が無いのが現状である。ここでは長期安定性に関する点と有用性について、化粧品として用いた時の観点で述べる。また今後の展開についても述べてみたい。

参加費: 部会員25,000 円、日化会員・協賛学会員30,000 円、一般35,000 円、学生 10,000 円

*勤務先が法人部会員の場合は部会員扱いとなります。

お申込方法

コロイドおよび界面化学部会ウェブサイト(以下キーワードでの検索又はURL に直接アクセス)からお申込み可能です。

コロイド 界面化学 **検索** 又は <https://event.csj.jp/form/view.php?id=54415>

上記ウェブサイトでの申し込みが出来ない場合、下記の「日本化学会コロイドおよび界面化学部会」事務局へお問い合わせ下さい。

参加費のお支払い

■郵便振替: 郵便振替用紙の口座番号に00170-0-6058 と記載し、余白に「コロイド界面技術シンポ」と明記下さい。

■銀行振込: みずほ銀行神田支店普通1073505 名義「公益社団法人日本化学会」宛にご送金ください。

*当日シンポジウム会場受付にてお支払い頂くことも可能です。

*領収書は当日会場においてお渡しいたします。

お問合せ(公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会事務局 TEL(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318 E-mail: dcsc@chemistry.or.jp